

〔建久三年皇大神宮年中行事〕四月十四日風日祈宮祭禮○中

遠江神戶種薑詔刀件種薑ハ、兼日ニ酒殿ニ進納、今日件出納、從西申ク、今年ノ四月ノ十四日ノ今

時以掛畏キ天照坐ス皇太神ノ廣前ニ、恐ミ恐ミモ申ク、宮司ノ常モ催奉ル、遠江神戶種薑ノ御贄

ヲ奉狀ヲ平ク安ク聞食テ、朝廷寶御位無動、常石堅石ニ、夜守日守ニ、護奉幸給、阿禮坐皇子達ヲモ

慈給ヒ、百官仕奉人等ヲモ、天下四方國々人民ノ作食ル、五穀豐饒ニ恤幸給ト恐ミ恐ミモ申○中

抑遠江神戶所進種薑、今日供進ノ用殘、禰宜中ニ分配、而禰宜各以其内子良宿館ノ南ノ垣内ニ所

奉殖也、爲物忌父等之役奉殖、然後九月御祭之時、御饌ニ所供進也、

〔甲斐國志百二十三〕生薑 河内嶺岩間ノ東邊稍暖地ニシテ薑ニ宜シク、逸見筋信州ヘモ駄運

販賣ス○中 中郡玉川村、西條新田村ノ生姜肥大ニシテ筋ナシ、

〔豐後國志速見郡〕土產 薑石垣莊別府村、及朝見郷濱脇村多出、

〔玉露叢十八〕一寛文五年正月ニ、將軍家ノ仰出シ、

一葉生姜 三月ヨリ

〔鹽尻六〕薑を撤せざるは、往昔食饌に有し物故に、これを食せずして盤盂に殘置、たうべざる事な

りと、淺見氏いへり、誠に文義明らかにして、おもしろしといひ侍りしに、岩付氏がいふ、此事古書

に證なくば、今説用ひがたしと、予○天野曰、四書備考孔安國云、齋禁葷物、薑辛而不臭、故不去、夫雖

齋亦不去、則常食之有薑可知云々、淺見氏が博識考所有て、まかいへるなるべしといひし、南史の

裴子野が傳に、孔稱不撤といひ、百川學海にのする、荆公の間に、劉貢が答ふる所皆謬れり、本草に

孔子民をすゝめて、はじめかみを食せしむるといへる、可笑の事也、

〔江戸總鹿子名所大全年中行事〕九月

十六日

芝神明祭